

宇和島のページ

岩松川のシロウオについて
学びを深めてみよう

愛媛県立宇和島水産高等学校 水野 晃 秀

1 岩松川について

宇和島市津島町を流れる岩松川は山間部から北灘湾に向かって西に流れ、水域の長さは14,486m、流域面積は129.6km²の二級河川です。支流の御代の川には山財ダムがあります。津島町では河口で漁獲されるシロウオを郷土料理として提供するイベント「津島しらお＆産業まつり」が毎年1月末頃に開催されています。

2 岩松川河口における伝統漁法シロウオ漁

2月教室では、岩松川の早春の風物詩であるシロウオ漁を体験してもらいます。岩松川でのシロウオ漁は小型船を使い、全長約30mの網を対岸に向かって仕掛け、上げ潮に乗って遡上してくるシロウオの群れを囲い込み一網打尽にする巻き網漁です（写真1）。漁獲は潮の満ち具合や水温差などに左右されます。



写真1

岩松地域で行われている漁法を知るとともに、シロウオが生息していくための環境や漁業従事者のことについて改めて考え、郷土（ふるさと）の自然や生物について理解を深めてください。

3 岩松小学校におけるシロウオ学習の実践紹介

岩松小学校にシロウオを地域教材としての活用してみませんかと紹介しました（水野, 2022）。そして、2024年1月27日、岩松小学校第4学年の総合的な学習の時間「岩松川流域学習」において、シロウオの体験と飼育観察を実践していただきましたので簡単に紹介します。

【シロウオ漁の体験】

本校生徒と一緒に、交代しながら小型船に乗ってもらいました。乗船したらシロウオが遡ってくるのを観察します（写真2）。漁獲物の中から、シロウオとそれ以外の生き物とに選別します（写真3）。シロウオ以外の生き物



写真3



写真4



写真5

もタブレットを使って記録しました（写真4）。漁獲されたシロウオはたらいに入れてもらいました（写真5）。

【シロウオの飼育観察】

観察水槽の準備は、小型のガラスまたはプラスチック容器にカルキを抜いた水道水を注ぎます。次に、洗浄した珪砂（※ホームセンターで販売されています）を5cmの厚みまで敷きます。その後、平たい石（またはタイル）を2個置きます。ここで準備は終了です。



写真6

いよいよシロウオの親魚を水槽へ入れますが、その前にオスとメスを区別します。メスのお腹には卵が入っているのが観察することができます。区別ができたならオス・メスの親魚を1対1または1対2の割合で水槽に入れます。その後、水槽を隠せるほどのフタをすれば完成です。しばらくすると、営巢中の石の上に卵が付着しています。写真は孵化直前の様子です（写真6）。



写真7

その結果、4月11日にシロウオ仔魚（写真7）が無事に誕生するのを観察できました（岩松小学校ホームページ）。

このように小学生でもシロウオを飼育することができます。

5 学習時の約束事

2月教室は季節的に寒いことや水辺での活動であるため、人命にかかわることが多いので、次のことは必ず守ってください。

- ・シロウオ体験は指導者の指示に従い行ってください。
- ・長袖・長ズボン・帽子等観察に適した服装を着用しましょう。
- ・お持ちであれば、デジタルカメラで漁の様子を記録しておきましょう。

6 文献

- 水野晃秀（2022）愛媛の自然, (63) 6 : 5-6.
- 宇和島市立岩松小学校ホームページ「岩松日記」
<https://iwamatsu-e.esnet.ed.jp/plugin/blogs/show/1/2/5734#frame-2>（令和7年12月18日閲覧）

写真の説明

写真1：河川流心部に向かって網を仕掛けしているところ

写真2：シロウオが遡ってくるのを観察しているところ

写真3：シロウオとそれ以外の生き物とに選別しているところ

写真4：タブレットを使って記録しているところ

写真5：漁獲されたシロウオ（写真1～5 2025年1月17日撮影）

写真6：孵化直前の営巢内（2025年4月9日撮影）

写真7：シロウオ孵化仔魚（2025年4月11日撮影）